平成30年度

事　業　報　告　書

令和元年6月

一般社団法人　日本私立歯科大学協会

平成３０年度事業報告及び収支決算報告（案）

目　　次

Ⅰ 事業報告
１．個別事項
（１）歯科医師需給問題について…… 3
（２）歯科医師国家試験について…… 3
（３）歯科医師臨床研修について…… 3
（４）歯学教育分野別評価について…… 4
（５）診療参加型臨床実習後の客観的臨床能力試験について…… 5
（６）スチューデントデンティスト制度について…… 7
（７）附属病院の感染対策について…… 9
（８）協会の「広報戦略」について…… 10
（９）私立歯科大学（学部）の財政等の現状について（平成 29 年版）‥ 12
(10) 広報発行（第 76 号・第 77 号）について…… 12
(11) 受験生確保対策事業について…… 14
(12) 研修事業について…… 16
(13) 私立大学歯学部学生生活協議会について…… 16
(14) 大学病院で診療に従事する教員等以外の医師・歯科医師に対する処遇に関する調査について…… 17
(15) 賛助会員の新規入会について…… 17
(16) 協会事務所の移転について…… 17
(17) 災害歯科保健医療連絡協議会について…… 18
(18) 私学関係諸団体との提携・協力及び援助について…… 18

２．会　議
（１）総　会
・第 86 回定時総会（H30.6.29）…… 19
・第 87 回臨時総会（H31.3.26）…… 22

（２）理事会
・第１回（H30.5.31）…… 25
・第２回（H30.6.29）…… 27
・第３回（H30.11.15）…… 28
・第４回（H30.12.19）…… 32
・第５回（H31.2.28）…… 32
・第６回（H31.3.26）…… 36

（３）部会・委員会
①教育・研究部会
・第１回（H30.6.29）…… 39
・第２回（H31.3.26）…… 39
②病院部会
・第１回（H30.6.29）…… 39
・第２回（H31.3.26）…… 40

③経営部会
・第１回（H30.6.29）…… 40
・第２回（H31.3.26）…… 40
④広報委員会
・第１回（H30.7.13）…… 41
⑤受験生確保対策委員会
・第１回（H31.3.13）…… 41
⑥附属病院感染対策協議会
・第 12 回（H31.3.20）…… 42
（４）事務局長会議
・第１回（H30.5.29）…… 42
・第２回（H30.11.8）…… 42
・第３回（H31.2.21）…… 43

３．研修会
（１）第 40 回附属病院管理運営事務研修会（H30.10.12）…… 44
（２）第 12 回教務研修会（H30.12.3～4）…… 46

Ⅱ 収支決算－平成 30 年度日本私立歯科大学協会収支決算報告書…… 50

Ⅲ 平成 31 年度日本私立歯科大学協会事業計画…… 61

Ⅳ 平成 31 年度日本私立歯科大学協会収支予算…… 64

Ⅴ 日本私立歯科大学協会役員名簿…… 66

Ⅵ 正会員の入会・退会及び会員名簿…… 67

Ⅶ 資料
１．私立歯科大学・歯学部募集人員の推移…… 69
２．平成 30 年度入試結果…… 70
３．平成 31 年度私立歯科大学・歯学部入学者選抜実施計画表…… 71
４．私立歯科大学・歯学部学費一覧…… 72
５．平成 31 年度入学志願者・受験者状況（中間状況）…… 73

Ⅰ　事　業　報　告

１．　個別事項

（１）歯科医師需給問題について

１．第 5 回理事会（H31.2.28）において、1 月 30 日に開催された、厚生労働省歯科医師の資質向上等に関する検討会第 10 回での検討状況について、主な議題は現在実施中の歯科医師の勤務実態等の調査研究に関してであったこと、また、江藤座長から調査研究の結果がまとめられる、5 月下旬以降に、調査研究結果も踏まえて、歯科医師の需給問題について検討を再開したいとの発言がなされたとの報告が白石事務局長からあった。

（２）歯科医師国家試験について

１．第 112 回歯科医師国家試験の不適切な問題について、各大学から厚生労働省に意見提出したものを、平成 31 年 3 月 4 日付で、協会からも会長名で厚生労働省に意見を提出した。

２．第 6 回理事会（H31.3.26）及び第 87 回臨時総会（H31.3.26）において、平成 31 年 2 月 2 日及び 3 日に実施され、3 月 18 日に合格発表された「第 112 回歯科医師国家試験」の結果について、資料により白石事務局長から説明があった。

【第 112 回】

	（出願者数）	（受験者数）	（合格者数）	（合格率）
新卒者	2,452 人	2,000 人	1,587 人	79.4％
全　体	3,723 人	3,232 人	2,059 人	63.7％

（昨年の状況）

【第 111 回】

	（出願者数）	（受験者数）	（合格者数）	（合格率）
新卒者	2,469 人	1,932 人	1,505 人	77.9％
全　体	3,721 人	3,159 人	2,039 人	64.5％

（３）歯科医師臨床研修について

１．第 2 回理事会（H30.6.29）において、平成 30 年度歯科医師臨床研修収支等の実態調査結果について、平成 29 年度における歯科医師臨床研修事業関連収支及び附属病院の収支については、共に全大学・学部の合計は、マイナス収支となっているとの報告が白石事務局長からあった。

２．第 3 回理事会（H30.11.15）において、歯科医師臨床研修費補助金の平成 31 年度概算要求額が 12 億 9,043 万 8 千円（対前年度△212 千円）となっていることの報告が白石事務局長からあった。

３．第５回理事会（H31.2.28）において、歯科医師臨床研修費補助金が、平成31年度政府予算案において、概算要求額どおりの12億9,043万8千円、計上されたとの報告が白石事務局長からあった。

（４）歯学教育分野別評価について

１．第１回理事会（H30.5.31）において、三浦会長から資料により、歯学教育分野別評価協議会の現在の状況について、説明があった。

また、協議会に設置される３つの部会の構成員の案について、私立大学側からは、評価運営組織の組織形態・業務内容に関する検討部会に藤井理事及び斎藤理事、トライアル検討部会に一戸先生（東京歯科大学)、中嶋先生（大阪歯科大学）及び近藤先生（岩手医科大学)、評価者養成ワークショップに関する検討部会に沼部先生（日本歯科大学）及び片岡先生（昭和大学）を考えているとの説明があり、協議の結果、評価運営組織の組織形態・業務内容に関する検討部会の構成員に渋谷副会長を追加することとし、これを承認した。

２．第２回理事会（H30.6.29）及び第86回定時総会（H30.6.29）において、三浦会長から、現在部会の人選を進めているが、一部の部会で構成員が決定しておらず、調整中であり、7月13日に開催される第２回歯学教育分野別評価協議会までには決定し、当日承認していただくこととしたいとの説明があり、これを承認した。

３．7月13日に歯学教育分野別評価協議会第２回会議が開催され、評価運営組織の組織形態・業務内容に関する検討部会、トライアル検討部会、評価者養成ワークショップに関する検討部会の構成及び各部会のタイムスケジュールについて、協議され、提案のとおり承認された。

４．第3回理事会（H30.11.15）において、三浦会長から、歯学教育分野別評価協議会の各部会の検討が始まっており、評価運営組織の組織形態・業務内容に関する検討部会第1回が10月18日に開催されたこと、及び評価者養成ワークショップ検討部会が9月3日にメールにて、また11月13日に開催されたことと、11月28日に大学基準協会、12月20日に大学改革支援・学位授与機構と意見交換を行う予定であるとの説明があった。

次いで、斎藤理事から、評価運営組織の組織形態・業務内容に関する検討部会第1回について、①正式実施に向け迅速に対応するため、本検討部会に会長、副会長に出席していただき、トップダウンで進める必要がある。②歯学教育分野別評価運営組織設置準備委員会の早期設置と事務局体制の整備が必要である。③大学基準協会及び大学改革支援・学位授与機構と意見交換を早期に実施する必要がある。などの協議をしたとの説明があった。

これらの説明の内容を確認するとともに、今後の方向性について、承認した。

５．第5回理事会（H31.2.28）において、藤井理事から、歯学教育分野別評価については、スケジュール的に遅れてはいるが、鋭意検討が進められており、1月30

日に第2回評価運営組織の組織形態・業務内容に関する検討部会が開催され、基本的に獣医学教育に準じて、評価を全て大学基準協会に依頼するとともに、歯科医学教育学会をカウンターパートとすることが確認されたとの説明があった。

引き続き、三浦会長から、検討部会での検討を踏まえ、2月14日に大学基準協会に行き、評価の受諾の検討依頼をした。正式には大学基準協会の理事会に諮ることとなるとのことであったが、前向きに検討したいとの回答があり、その後、常任理事会で、受諾の了承が得られたとの情報があったとの説明があった。

また、今後は、7月に開催される歯科大学学長・歯学部長会議で決定して、正式依頼をする予定であるとの説明があった。

これらの説明の内容を確認するとともに、その方向性について、承認した。

６．第6回理事会（H31.3.26）において、三浦会長から、資料により、歯学教育分野別評価協議会評価運営組織の形態・業務内容に関する検討部会での検討状況について説明があり、これまでの部会での検討に沿って、評価を大学基準協会に依頼することとしたいとの提案があり、これを承認した。

７．第87回臨時総会（H31.3.26）において、三浦会長から、資料により、1月30日に第2回評価運営組織の組織形態・業務内容に関する検討部会が開催され、認証評価機関である大学基準協会と大学改革支援学位授与機構のうち、評価業務受託に前向きな姿勢であった、大学基準協会に評価業務を依頼する方向性を確認し、これを受けて、2月14日に大学基準協会と更に詳細な打ち合わせを行った結果、評価業務を受けていただけそうなこととなった。大学基準協会に評価業務を委託することをお認めいただければ、協議会として、そのような形で進めていきたいとの説明があり、その方向性について承認した。

（５）診療参加型臨床実習後の客観的臨床能力試験について

１．第 3 回理事会（H30.11.15）において、羽村専務理事から、資料の内容については、本年度の報告書に記載されているものであるが、歯科の関係で公表が遅れているものであること、2020 年から医科及び歯科同時の実施を目指して検討が進められており、名称は「診療参加型臨床実習後の客観的臨床能力試験」となっていること、及び歯科については、臨床実習の現場で評価する臨床実地試験と模型を使って評価する一斉技能試験を実施することとなっていることと、その評価基準及び現在評価者の養成が始まっているとの説明があった。

このことについて、その方向性について、承認した。

２．第 5 回理事会（H31.2.28）において、羽村専務理事から、診療参加型臨床実習後の客観的臨床能力試験の受験料が、歯科模型代と医療系大学間共用試験実施評価機構の事務処理経費を含めて、比較的高い 5 万円での設定が検討されていることから、各大学からも機構の会議で、私立側としての意見を述べていただきたいとの発言があった。

このことについて、出席者から検討の状況についての情報が流れて来ない、などの意見が出され、協会として、機構に、①学生の負担を軽減するため、受験料を低額にすること②歯科模型について、購入して通常の教育でも使用できるようにしてほしいことを申し入れすることとなった。

これらのことについて、その方向性について、承認した。

３．第５回理事会での議論を受けて、3 月 14 日付で、医療系大学共用試験実施機構へ申し入れ書を提出した。（別記１）

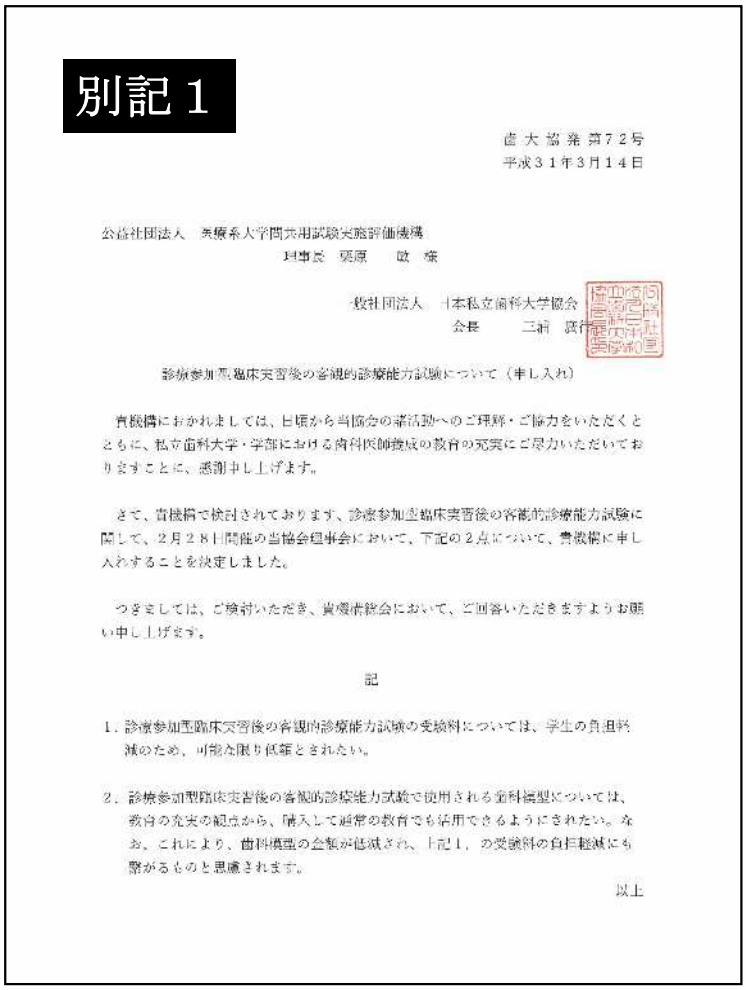
４．第 6 回理事会（H31.3.26）において、羽村専務理事から、診療参加型臨床実習後の客観的臨床能力試験に関して、2 月 28 日開催の第５回理事会での決定を受けて、資料のとおり、3 月 14 日付で、医療系大学共用試験実施評価機構に申し入れ書を送付したとの報告があった。

藤井理事から、このことについて、先日開催された機構の総会で回答があり、受験料５万円の根拠として、PCC-OSCE が始まると、組織が大きくなり事務所移転が必要となること及びコンピュータデータのクラウド化を進める必要もあることから、ここにインフラ整備のための費用をプラスしておきたいとの説明があった。これに対して、公益法人が事業収入で利益を上げるのはおかしく、会費の値上げを容認するものではないが、本来的には会費の中で法人運営はするべきものではないかとの意見を述べたこと及び実際にかかる経費は、23,000 円程度との情報もあったとの説明があった。

これに関連して、櫻井理事から、同日開催した教育・研究部会で、歯科模型の破折が多発し、品質に問題がるとの意見が、多数出されたとの発言があった。

議長から、引き続き、私立歯科大学協会として、機構に働きかけていくこととしたいとの発言があった。

５．第 87 回臨時総会（H31.3.26）において、上記、第 6 回理事会と同様の説明があり、今後の対応の方向性等について、承認した。



別記１

歯大協発第７２号
平成３１年３月１４日

公益社団法人　医療系大学間共用試験実施評価機構
理事長　吉原　　敬　様

一般社団法人　日本私立歯科大学協会
会長　　三浦　廣行

診療参加型臨床実習後の客観的診療能力試験について（申し入れ）

貴機構におかれましては、日頃から当協会の諸活動へのご理解・ご協力をいただくとともに、私立歯科大学・学部における歯科医師養成の教育の充実にご尽力いただいておりますことに、感謝申し上げます。

さて、貴機構で検討されております、診療参加型臨床実習後の客観的診療能力試験に関して、２月２８日開催の当協会理事会において、下記の２点について、貴機構に申し入れすることを決定しました。

つきましては、ご検討いただき、貴機構総会において、ご回答いただきますようお願い申し上げます。

記

１．診療参加型臨床実習後の客観的診療能力試験の受験料については、学生の負担軽減のため、可能な限り低額とされたい。

２．診療参加型臨床実習後の客観的診療能力試験で使用される歯科模型については、教育の充実の観点から、購入して通常の教育でも活用できるようにされたい。なお、これにより、歯科模型の金額が低減され、上記１．の受験料の負担軽減にも繋がるものと思慮されます。

以上

（６）スチューデントデンティスト制度について

１．第１回理事会（H30.5.31）において、三浦会長から、資料により、医療系大学間共用試験実施評価機構は、法人格を有する団体でないと共用試験の成績提供ができないと言っており、このため歯科大学学長・歯学部長会議常置委員会では、歯科大学学長・歯学部長会議を一般社団法人化して、成績の提供を受け、評価機構と連名でスチューデントデンティストの認定を行うこと及び両機関の連絡調整のための認定連絡調整会議を設置することなどの検討をしているとの説明があった。

このことについて、出席者から、質問や意見が数多く出され、協議の結果、スチューデントデンティスト制度は重要検討事項であり、私立大学・学部として一枚岩で対応する必要があることを確認の上、先ず、認定連絡調整会議設置の必要性について、挙手による意向確認をした。その結果、出席理事全員の賛成により、認定連絡調整会議の設置には反対であることを確認した。引き続き、共用試験の成績に関して、私立分については、法人格を有する一般社団法人私立歯科大学協会で受け取って、国公立とは別に、私立のみでカットオフ値の設定等をするという方向性を承認した。

これらの協議結果を踏まえ、歯科大学学長・歯学部長会議常置委員会で、更に検討をすることとしたいとの発言が、三浦会長からあった。

２．第２回理事会（H30.6.29）において、資料により、三浦会長から前回の理事会では、「認定連絡調整会議」という名称の中間組織の設置には反対との決議がなされているところであり、その内容について全国歯科大学学長・歯学部長会議常

置委員会のメンバーで相談したところ、国公立のみでの法人設立は難しいとのことと、国公私立を通じた制度設計の必要性から、やはり歯科大学学長・歯学部長会議と医療系大学間共用試験実施評価機構との間に中間組織の設置が必要との結論に至り、その上で、今回提案では、医療系大学間共用試験実施評価機構の中で、中間組織である「ＳＤ認定運営協議会」が、共用試験の成績を見ることが可能となり、この場合、歯科大学学長・歯学部長会議を法人化することなく制度設計ができることになるとの説明があった。

このことについて、出席者から種々質問があり、議論の結果、中間組織の設置について、承認した。

次に、三浦会長から、追加資料が配布され、認定書の発行名義等についての議論がなされ、その結果、追加配布資料の一部訂正が提案され、これを確認し、承認した。

なお、本日、承認された内容を歯科大学学長・歯学部長会議常置委員会に諮り、7 月 13 日に開催される歯科大学学長・歯学部長会議に提案していただくことを、三浦会長に依頼した。

３．第 86 回定時総会（H30.6.29）において、三浦会長から、7 月 13 日に開催される歯科大学学長・歯学部長会議に提案する案を、これまで同会議常置委員会で検討を重ね、これを本日開催した理事会で議論し、私立大学としての案がまとまった。この案は、「ＳＤ認定運営協議会」を設置し、カットオフ値等を検討し、認定証の発行は各大学で行うというものであり、今後、常置委員会での議論を経て、歯科大学学長・歯学部長会議に提案することとしたいとの説明があり、その方向性を承認した。

４．第 3 回理事会（H30.11.15）において、三浦会長から、第 1 回ＳＤ認定運営協議会が 10 月 5 日に医療系大学間共用試験実施評価機構で開催され、前田新潟大学歯学部長が座長に藤井日本歯科大学新潟生命歯学部長が副座長に選任されたこと及び構成メンバーの説明があり、さらに、11 月 7 日に第 2 回協議会が開催されたとの説明があった。

藤井理事から、第 2 回協議会における検討状況について、次のとおり説明があった。

歯科大学長・歯学部長会議で示されたポンチ絵を元に、検討は進められ、評価のための新たな組織は作らず、歯科大学長・歯学部長会議と医療系大学間共用試験実施評価機構双方から人を出す中間組織（協議会）が運営する。具体的には、認定作業は各大学でお願いすることとなっていること、トライアルについては来年度秋から実施することとしており、カットオフ値については、IRT スコアーで 400 素点で 60 点）を基準とすることとなっており、現状や医学部との比較からしても問題はないと思われること、及び OSCE については各大学での合否を尊重することになっている。さらに、認定の流れとしては、各大学が CBT の成績の提供を機構から受けて、IRT スコアー400 以上の各大学で定める基準に合格した認定候補者のデータをＳＤ認定運営協議会に報告し、協議会が機構に成績確認をして認定証発行許可を出し、各大学が規定のデザインの認定証を発行するということになる。また、スチューデントデンティストの認定期限については、以前、常置委員会の中で、私立歯科大学側から１年との話があったが、実際の運用を考えると、期限は定めない方が良いことから、その方向で検討を進めることで了承いた

だきたい。
　これらのことについて、認定期限をなしとすることも含めて、その方向性について、承認した。

５．第５回理事会（H31.2.28）において、藤井理事から、資料により、ＳＤ認定運営協議会での協議の概要について、認定の流れと認定証の説明があった。また、協議会に要する経費として、各大学に５万円の拠出をお願いし、委員長又は副委員長が経費管理をすることになったこと、この制度は2022年度から開始することとなるとの説明があった。更に、IRTスコアーによる、合格基準を協議するための会議も必要であるとの説明があった。
　これらのことについて、その方向性について、承認した。

６．第87回臨時総会（H31.3.26）において、藤井理事から、資料により、ＳＤ認定運営協議会をこれまで５回開催し、委員の旅費等として、各大学５万円の負担をお願いすることと、実施については資料の内容で、共通理解が得られたが、最近になって医療系大学間共用試験実施評価機構の理事会に諮られていないことが判明した。このため、機構に依頼文書を出して、理事長決裁後に、各大学に通知を発出することとなった。4月から臨床実習を始める大学については、この制度に間に合わないので、当面は従来どおりの対応をしていただき、その後、通知を受けて、各大学の判断で年度途中又は来年度のいずれかから対応をしていただきたいこと及びカードは各大学で作成していただくことになっているとの説明があり、その方向性について承認した。

（７）附属病院の感染対策について

１．第10回私立医科大学病院感染対策協議会総会（H30.9.1）が、杏林大学で開催され、本協会から明海大学歯学部の星野倫範先生、昭和大学歯学部の鎌谷宇明先生が代表として出席した。

２．第20回国公立大学附属病院感染対策協議会総会（H30.10.15～16）が、京都府立医科大学の当番で開催され、本協会から松本歯科大学の川村　仁先生、朝日大学歯学部の安田順一先生が代表として出席した。

３．附属病院感染対策協議会（第12回）（H31.3.20）を開催し、第10回私立医科大学病院感染対策協議会総会及び第20回国公立大学附属病院感染対策協議会総会への参加報告とともに、「感染対策教育に関するアンケート調査」及び「歯科診療用各種ハンドピースの滅菌・管理に関するアンケート調査」について、北海道医療大学永易裕樹先生から、報告があり、意見交換を行った。
　なお、来賓として、文部科学省高等教育局医学教育課大学病院支援室宇野光子専門官、国公立大学附属病院感染対策協議会より、村上啓雄会長及び太田耕司広島大学病院講師（歯科医療部会委員長の代理）、私立医科大学病院感染対策協議会より、中澤　靖事務局長が出席し、協議に参加した。

４．平成 30 年度第 2 回病院部会（H31.3.26）において、「感染対策教育に関するアンケート調査」及び「歯科診療用各種ハンドピースの滅菌・管理に関するアンケート調査」について、渋谷部会長から説明をし、意見交換等を行った。

（８）協会の「広報戦略」について

１．第 1 回理事会（H30.5.31）において、羽村専務理事から資料により、動画を活用した新広報戦略事業の現段階での具体的な内容について、報告があった。

２．第 86 回定時総会（H30.6.29）において、羽村専務理事から、配付資料に基づき、事業の進捗状況の説明があり、引き続き動画作成への協力について各大学への依頼がなされた。また、近日中に公開予定のＬＰサイトを視聴した。

３．第 9 回歯科プレスセミナー（H30.10.23）を開催し、日本大学松戸歯学部の小見山　道先生が「原因不明の歯痛への対応―非歯原性歯痛の臨床―」、大阪歯科大学の髙橋一也先生が「歯科教育の今とこれから―超高齢化時代の歯科医師を育てる―」と題して、講演を実施し、前年度より、大幅増の 31 媒体 36 名のプレス関係者の出席があった。（別記２）

４．第 3 回理事会（H30.11.15）において、羽村専務理事から、資料により、平成 22 年度から実施してきた歯科プレスセミナーについて、その実施効果及びこれら事業の実施ための広報戦略事業経費が本年度で残額がなくなったことの説明があり、来年度以降、歯科プレスセミナーを継続実施すべきかどうかについて、経費負担も含めて、意見を伺いたいとの発言があった。

出席者からは、志願者増や報道がネガティブなものからポジィティブなものに変化しつつある効果を考えて、継続する方向が良いのではないかの意見が出された。また、経費負担についての事務局長会議での検討状況について質問があり、事務局長会議では 1 回当たり約 600 万円の経費を毎年度 17 大学で分担して負担する形が良いとの意見であったとの説明があった。

これらのことについて協議の結果、来年度以降、経費を削減しつつ、継続実施することが承認された。

また、第 9 回歯科プレスセミナー（H30.10.23）を開催したことについて報告があった。

５．第 5 回理事会（H31.2.28）において、羽村専務理事から、資料により、広報戦略事業として実施している「僕とワタシのイイはなし」について、エピソード募集に 31 人からの応募があり、三浦会長等と電通ＰＲで優秀作品選定の原案を作成して、それをメールで協会理事に送信し、了承を得て、最優秀作品 1 点と優秀作品 3 点を決定した。最優秀作品については、撮影をして映像化し、3 月中に、YouTube で公開することとしているとの報告があった。

６．第 87 回臨時総会（H31.3.26）において、羽村専務理事から、資料により、歯科プレスセミナーの本年度の実施概要及び講演が各大学一巡して、実施計画が終了したこと並びに来年度からも引き続き、実施することが理事会で承認されていることを説明した。

　また、本年度実施した、「僕とワタシのイイはなし」事業について、特設サイトに三浦会長及び各大学の学生・卒業生等の高校生に向けた、映像を掲載するとともに、国民から歯科に関するエピソードを募集したところ、31件の応募があり、最優秀作品１点と優秀作品３点を選定し、最優秀作品については、動画として映像化してYouTubeで広く広報することとしていることを説明し、最優秀作品の動画を上映した。

　これらのことについて、今後の方向性と本年度実施事業結果について、承認した。（別記３）

別記２

～急発展を遂げる、歯科医療が見据える国民健康の最前線～

第9回歯科プレスセミナー

<講演1>

原因不明の歯痛への対応　－非歯原性歯痛の臨床－

【日本大学松戸歯学部口腔健康科学講座（顎口腔機能治療学分野）小見山　道　教授】

<講演２>

歯科医学教育の今とこれから－超高齢化時代の歯科医師を育てる

【大阪歯科大学高齢者歯科学講座　高橋　一也　教授】

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝<開催概要>＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

■日時　2018年10月23日（火）　14：00～15：35　（受付開始　13：30）

■会場　コンファレンススクエア エムプラス　1階「サクセス」
〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-5-2 TEL：03-3282-7777

■登壇者
・小見山　道　教授
（日本大学松戸歯学部口腔健康科学講座（顎口腔機能治療学分野））
・高橋　一也　教授
（大阪歯科大学高齢者歯科学講座）
・三浦　廣行　会長（一般社団法人 日本私立歯科大学協会）
・羽村　章　専務理事（同協会）
・井出　吉信　副会長（同協会）

■主催　一般社団法人 日本私立歯科大学協会

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝<ご案内略図>＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

<ＪＲ>
・「東京駅」丸の内南口　徒歩 約２分
・京葉線「東京駅」１０番出口より直結

<地下鉄>
・千代田線「二重橋前駅」４番出口　徒歩 約２分
・丸ノ内線「東京駅」地下通路直結　徒歩 約３分
・都営三田線「大手町駅」Ｄ１出口　徒歩 約４分
・東西線「大手町駅」Ｂ１出口　徒歩 約６分

- 1 -

進行構成表

TIME	LAP	TITLE	登壇者	内容
13：30	'30	受付		■メディア受付～客席誘導
14：00	'5	主催者挨拶	一般社団法人 日本私立歯科大学協会 三浦 廣行 会長	■協会代表挨拶
14：05	'5	協会概要紹介 講師紹介	一般社団法人 日本私立歯科大学協会 羽村 章 専務理事	■協会概要紹介　講師紹介
14：10	'35	講演①	日本大学松戸歯学部 口腔健康科学講座 （顎口腔機能治療学分野） 小見山　道　教授	■講師ご講演 原因不明の歯痛への対応 －非歯原性歯痛の臨床－
14：45	'35	講演②	大阪歯科大学 高齢者歯科学講座 高橋　一也　教授	■講師ご講演 歯科医学教育の今とこれから 超高齢化時代の歯科医師を育てる－
15：20	'10	質疑応答	進行 羽村 章 専務理事 回答： 日本大学松戸歯学部 小見山　道　教授 大阪歯科大学 高橋　一也　教授	■質疑応答
15：30	'05	閉会	一般社団法人 日本私立歯科大学協会 井出 吉信 副会長	■15：35終了

- 2 -

別記３

（９）私立歯科大学（学部）の財政等の現状について（平成 29 年版）

加盟大学から資料の提供を受け、平成 29 年版を作成し、平成 30 年度第 1 回経営部会（H30.6.29）の審議を経て、加盟大学へ送付した。

(10) 広報発行(第 76 号・第 77 号)について

１．第 1 回広報委員会（H30.7.13）を書面により開催し、大野委員長から、本年度の協会広報については、従前どおり年二回、発刊することとし、掲載項目については、従前の内容に新たに賛助会員企業紹介の項目を加えることとしたい。理由としては、賛助会員（年会費 12 万円）については、現在 29 社に加盟いただいているが、既加入企業にとっては、協会の賛助会員であることで、会員大学・学部の信頼を得やすいということはあるが、具体的なメリットがないとの意見も寄せられており、平成 29 年度には、長年加入いただいていた、1 社が退会された。新たに賛助会員企業紹介の項目を加えることにより、賛助会員となることの、メリットの一つになればと考えている。なお、内容としては、社長メッセージ及び会社概要に各号の１ページ分を充て、一回に 2 社ずつ掲載していくこととしたい。との提案があった。

上記のことについて、委員から特段の意見はなく、委員長提案のとおり、承認した。

【掲載項目】
１．巻頭言
２．大学のニュース
３．事業概要
４．日本私立歯科大学協会関係の諸会議
５．新聞記事の要点
６．叙勲
７．訃報
８．人事異動消息
９．協会役員・部会・委員会名簿
10．賛助会員企業紹介
11．一般社団法人　日本私立歯科大学協会加盟名簿
12．編集後記

２．広報委員会の承認事項に従い、第76号を平成30年11月30日に、第77号を平成31年3月31日に発行した。（別記４）

別記４

日本私立歯科大学協会広報　第76号　平成30年10月

目　次

〈巻頭言〉
「オーラルフレイル」と「医学的歯学」
[illegible]……2
〈大学のニュース〉
○北海道医療大学歯学部
・ニューヨーク州立大学バッファロー校歯学部と学術国際交流協定を締結……7
・小学生1日歯医者さん～歯医者さんのキッザニアだぞ！～開催……7
・本学歯学部学生が3年連続で全国学生岩岳スキー大会優勝……7
○岩手医科大学歯学部
・平成29年度三大学連携ウインターセッションが行われました……7
・平成30年度基礎講義が行われました……8
・3学部合同学生セミナーが行われました……8
・大規模事故・災害等の発生時における協力要請申合せ調印式が行われました……9
○奥羽大学歯学部
・いきいき健康づくりフォーラム……9
・奥羽大学生の新たな旅立ち！オリエンテーションキャンプ開催……9
・エッセン市訪日派遣団来校……10
・学内の「推し木」コーナー献呈……10
○明海大学歯学部
・歯学部国際交流プログラム イタリア、アメリカの協定校3校と交流……10
・南アフリカ共和国「自由の日の集い」に宮田理事長と安井学長が出席しました……11
○東京歯科大学
・本学が平成29年度「私立大学研究ブランディング事業」（文部科学省）の支援校に選定される……11
・平成29年度口腔科学研究センターワークショップ開催……12
・市川市との合同災害救護訓練報告……12
○昭和大学歯学部
・歯学部生の吉村かおりさんがジャネフ・リスター賞を受賞……13
・歯学部が川崎市歯科医師会と協定締結 広い分野で連携強化……13
・本学歯科医師の松本洋平さん 人名救助で感謝状……14
・ウィーン医科大学と歯学部間協定を締結……14
○日本大学歯学部
・歯学生に対する国家試験合格支援講座……14
・平成30年度歯学部第1回公開講座……14
・第70回日本大学歯学会総会・学術大会……15
・実験動物慰霊祭……15
○日本大学松戸歯学部
・松戸市制施行75周年 市政功労者表彰（教育文化功労）受賞……15
・松戸市と包括的な連携協定を締結……16
○日本歯科大学生命歯学部
・本学創立112周年記念 400余名が式典参列……16
・芝浦病院30周年記念誌刊行……17
○日本歯科大学新潟生命歯学部
・「[illegible]」の試食会を開催……18
・在宅ケア新潟クリニック開院―ユニット・チェアのない歯科診療所……18
・グラウンド全天候型・人工芝に改修……18
○神奈川歯科大学
・ファティマ大学学長、歯学部長、病院長の来校……19
・第50回全日本歯科学生総合体育大会……19
・神奈川歯科大学 大学評価において「適合」認定……20
・横須賀市景観重要樹木に指定……20
○鶴見大学歯学部
・本学歯学部学生、インド国際歯科学生研究発表シンポジウムで1位……20
・本山参禅会体験……20
○松本歯科大学
・学生有志が児童に歯の大切さ伝える 歯科指導を通し地域社会に貢献―……21
・新・歯学部長に宇田川信之教授が就任……21
・ベトナム ホーチミン市代表団一行が表敬訪問 医療・教育分野の交流促進に向けて意見交換……21
・西本裕太さん指揮「桜コンサート」―講義会・感謝祭で繋がったキャンパス―……22
○朝日大学歯学部
・北京大学口腔医学院と新たな協定……22
・タフツ大学歯学部長が特別講演……22
・北京大学口腔医学院との交流……23
・新たに「顎顔面外科・耳鼻咽喉科」開設……23
○愛知学院大学歯学部
・日本補綴歯科学会総会・学術大会の学生セッションで本学学生が最優秀発表賞受賞……24
○大阪歯科大学
・シドニー大学生が本学を訪問……24
・平成30年度「歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業」の実施団体に選定……25
・中国昆明医科大学と学生交流協定締結……25
○福岡歯科大学
・水田祥代理事長が小児外科学の国際賞 Coe Medal を受賞……26
・福岡歯科大学に[illegible]教授が就任……26
・小呂島への無医地区歯科巡回診療を開始……26
・九州大学歯学部と学生の単位互換連携協定を締結……27
〈事業概要〉
○平成29年度協会決算……28
○平成30年度協会事業計画……28
○平成30年度協会収支予算……30
○総会……31
○理事会……34
○部会・委員会……36
○事務局長会議……37
○研修会……37
〈日本私立歯科大学協会関係の諸会議〉
○第25回日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科衛生士協議会……39
○平成29年度全国私立歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師代表者会（第16回定例会議）……39
〈新聞記事の要点〉
1．教育関係……40
2．歯科関係……43
〈叙勲〉……45
〈訃報〉……46
〈人事異動消息〉……47
〈協会役員・部会・委員会名簿〉……50
〈一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿〉……64
〈編集後記〉……65

日本私立歯科大学協会広報　第77号　平成31年3月

目　次

〈巻頭言〉
温故知新 私立歯科大学協会の沿革
森川 [illegible]……2
〈大学のニュース〉
○北海道医療大学歯学部
・2018年度（第21回）SCRP日本代表選抜大会で本学歯学部学生が臨床部門第1位入賞……5
・ハバロフスク・極東国立総合医科大学において、小児歯科学分野での学術大会に参加……5
・第66回JADR総会・学術大会で本学歯学部助教がYoung Investigator Award 2018を受賞……5
○岩手医科大学歯学部
・ウェルかむ2018が行われました……6
・オープンキャンパス2018が行われました……6
・第51回歯学部祭が行われました……6
・矢巾附属病院の関連施設 健康プラザの開館式が行われました……7
○奥羽大学歯学部
・[illegible]大学歯学部との国際交流……7
・歯科医師・薬剤師体験講座……7
・本学と福島民報社との連携協力協定……8
・教育講演会を開く……8
○明海大学歯学部
・タフツ大学歯学部創立150周年祝賀会に宮田理事長と安井学長が参加しました……8
・宮田理事長、安井学長、歯学部学生が、メキシコ州立自治大学歯学部学生とともにメキシコ大使館を表敬訪問しました……9
・2019年4月、明海大学が東日本の私立大学で初の4年制歯科衛生士養成課程「保健医療学部口腔保健学科」を開設……9
・城西大学および日本医療科学大学と「連携協力協定」を締結しました……10
○東京歯科大学
・大妻女子大学と包括協定を締結……10
・中国・温州医科大学との友好協定締結……10
・第50回東歯祭フェスティバル2018……11
○昭和大学歯学部
・学校法人日本体育大学と包括連携協定を締結……11
・[illegible]助教が国際[illegible]学会で受賞……12
・昭和大学ふるさと会発足式を開催……12
・学校法人東京農業大学と包括連携協定を締結……13
○日本大学歯学部
・新付属歯科病院での診療が開始！……13
・平成30年度医療安全研修会開催の報告……14
・平成30年度歯学部第2回公開講座……15
○日本大学松戸歯学部
・平成30年度FD教育講演会……15
・平成30年度市民大学講座……15
○日本歯科大学生命歯学部
・附属病院防災訓練・消防訓練審査会に出場……16
・第31回姉妹校交換プログラム 研修生を受け入れ、総計427名に……16
・上学年が[illegible]体験―本病院・多摩クリニックで―……17
○日本歯科大学新潟生命歯学部
・医の博物館 開館30周年記念特別展示会……17
・国内唯一の歯科大学併設の認知症カフェ……18
○神奈川歯科大学
・全学防災訓練の実施……18
・第49回[illegible]供養の会……18
・附属病院1F[illegible]式……18
○鶴見大学歯学部
・歯学部に対する感謝状贈呈について……19
・[illegible]大学教員 歯学部口腔顎顔面放射線・画像診断学講座で3カ月研修 国際交流……19
○松本歯科大学
・学生が制作したイラストが公式キャラクターに……20
・歯学部第5学年清水まやさん、大谷有希さん学生大会でポスター賞を受賞……20
・学生有志が長野県総合防災訓練に参加……21
・第1学年生が小学校で歯科保健指導……21
○朝日大学歯学部
・歯学部海外研修を実施……22
・名誉ある「Best Doctors」を受賞……22
・学会特別功労賞を受賞……22
・海外の歯学部学生を受け入れ……23
○愛知学院大学歯学部
・歯学部 [illegible]先生（有床義歯学講座）が日本補綴歯科学会にて課題口演優秀賞を受賞……23
・歯学部 [illegible]教授の発明が商品化されました……23
○大阪歯科大学
・大阪介護老人保健施設協会との連携協定を締結……23
・The 2nd Forum for International Students を開催……24
・枚方市学公連携プラットフォームに関する協定調印式を開催―大学・市・産業界が結集し、新たな社会連携へ第一歩を踏み出す……25
・「大阪歯科大学歯学部生涯研修センター」キックオフセミナーを開催……26
○福岡歯科大学
・福岡学園・福岡歯科大学創立50周年特設記念サイトがオープン……27
・「福岡未来創造プラットフォーム」に関する協定を締結……27
・[illegible]センターを開設……28
・医科歯科総合病院で大規模災害時対応訓練を実施……28
〈事業概要〉
○理事会……29
○事務局長会議……33
○研修会……33
○第9回歯科プレスセミナー……34
〈日本私立歯科大学協会関係の諸会議〉
○第44回全国私立歯科大学・歯学部附属病院看護部長会……35
○第30回全国私立歯科大学附属病院薬剤部長会……35
○第23回日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科技工士協議会……35
○平成30年度全国私立歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師代表者会（第17回定例会議）……36
〈新聞記事の要点〉
1．教育関係……37
2．歯科関係……40
〈叙勲〉……46
〈訃報〉……46
〈人事異動消息〉……46
〈第50回全日本歯科学生総合体育大会の成績表〉……50
〈協会役員・部会・委員会名簿〉……53
〈賛助会員企業紹介〉……57
〈（社）日本私立歯科大学協会加盟名簿〉……58
〈編集後記〉……58

（11）受験生確保対策事業について

１．第５回理事会（H31.2.28）において、本田常務理事から、資料により、WHITE CROSS 株式会社から、私立歯科大学協会との連携事業として、各大学の学長・学部長のインタビュー記事を掲載したいとの企画提案があり、受験生を持つ親の歯科医師への広報効果も高いと考えられることから、実施することとしたいとの提案があり、これを承認した。

２．第１回受験生確保対策委員会（H31.3.13）を開催し、平成 30 年度において、前年の委員会での決定事項に従い、下記のとおり、事業を実施したことの報告が、事務局からあった。

①私立歯科大学・歯学部の受験を希望する高校生等が、受験計画を立てる際の参考にしてもらうため、主要な全国の高等学校（校長及び進路指導部主事宛）に下記資料を送付し、校内への掲示ならびに受験希望者への配布を依頼

・ 新しい歯科医師の時代がやってくる！
・ これから歯科医師をめざすみなさんへ
・ 私立大学 17 歯学部問い合わせ先＆アクセス一覧
・ 私立大学 17 歯学部平成 31 年度入試（一般入試・センター利用入試）のお知らせ

②「医歯薬進学4月号（平成31年3月発刊）」に下記広告を掲載

・ 新しい歯科医師の時代がやってくる！
・ これから歯科医師をめざすみなさんへ
・ 私立大学 17 歯学部問い合わせ先＆アクセス一覧

③インターネット・ホームページによるＰＲ

ホームページ掲出内容
・ 全入試日程（加盟大学17歯学部の平成31年度入試日程一覧）
・ 加盟大学入試要項（加盟大学17歯学部の平成31年度入試要項）
・ 入試結果報告（加盟大学17歯学部の平成30年度入試結果）
・ 歯学部を目指す皆さんに(Q&A)(私立歯科大学の特長等についての一問一答)
・ 協会の刊行物
・ 協会の概要

また、来年度の事業についても、前年度と同様の内容で実施することを承認した。

さらに、本田委員長から、受験生確保対策委員会委員の皆様に事前に意見をお伺いしていた、WHITE CROSS 株式会社からの事業提案については、2 月 28 日の理事会でその実施が承認されたとの説明があった。引き続き、白石事務局長から、WHITE CROSS 株式会社から提出された具体的な企画書及び掲載のイメージ書により、①掲載項目②アピール対象は、広報戦略事業「僕とワタシのイイはなし」が高校生を対象としているが、切り分けて、受験生を持つ保護者（WHITE CROSS 会員 15000 人の歯科医師）を対象とすること③学長・学部長へのインタビュー（動画掲載）については、月 2 校ペースで進める予定であること④写真等

については、各大学から提供いただきたいことなどの説明があった。これらのことについて、確認・承認した。

３．第 6 回理事会（H31.3.26）及び第 87 回臨時総会（H31.3.26）において、藤井理事から、3 月 1 日に行われた、入学者選抜の公正確保等に関する有識者会議のヒアリングの状況について、歯科大学長・歯学学部長会議常置委員会からの依頼を受け、東北大学佐々木歯学部長と一緒に対応し、特に問題なく終わったこと及び我々のプロフェッショナルオートノミーを信じてほしいと述べたところ、文部科学省の担当者から、入学者選抜に関しての基本的な考え方を先に、表明されてはどうかとの助言があり、私立歯科大学協会のホームページに掲載することとなったとの報告があった。

引き続き、三浦会長から、文部科学省からの助言を受け資料の「日本私立歯科大学協会加盟 17 校の入学試験に対する基本的考え方」を取りまとめ、メールにて各理事の了解を得た上で、協会のホームページで公表したとの報告があった。（別記５）

４．第 6 回理事会（H31.3.26）及び第 87 回臨時総会（H31.3.26）において、白石事務局長から、資料により、平成 31 年度入学志願者・受験者状況（中間報告）について、入学志願者及び受験者ともに増加しているとの、報告があった。

別記５

日本私立歯科大学協会加盟 17 校の入学試験に対する基本的考え方

（一社）日本私立歯科大学協会加盟校は入学試験（以下、「入試」という。）の実施において、これまで公平かつ厳粛に行ってきているが、今般、医科大学入試に係わる不適切とされる事例が報道され、社会問題となっていることを受けて、本協会としても、入試制度に関する考え方について、加盟17校の共通認識として、以下のような公表を行うものである。

1. 公平性や透明性は医療の本質であると同時に入試においても同様である。
2. 大学設置基準および大学入学者選抜実施要項を遵守し、入学者選抜は、中立・公正に実施する。
3. 歯科医師の国家資格にかかわる歯学部への入学は、卒業後の職業に直結する。したがって、その進学が、どのような資質・能力・特色を必要とされる医療人となることなのかを明確にしておく必要がある。
4. 公平性と透明性を担保し、各大学が掲げるアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー及びディプロマポリシーに基づいた国民に望まれる医療人を育成すべく、厳正な入試審査に努める。
5. 歯学部の入試では、学力とともに医療人に必要な基本的資質を求めている。入学者は、国民の医療を担う覚悟が必要であり、そのため入試では、学力のみならず、受験生の人間性を十分に評価する必要がある。
6. 特別入試（推薦・AO 等）は、人物重視の多面評価を行ううえで、効果的なマッチング入試である。面接（個別面接、グループディスカッション等）や小論文などによって医療人としての適性及び資質の判定は重要である。一方で、面接員、評価者の評価基準が重要であり、複数の評価者による、公平性の担保をしてきており、これを引き続き実施する。
7. 一般入試（入試センター試験利用を含む。）は、医療系では特に「医療人としての適性」としての観点を重視することから、面接試験を併せて実施してきており、これも引き続き実施する。
8. 私学は、建学の精神をその教育の理念として、歯科医師の育成をはかる教育機関である。アドミッションポリシーは、この建学の精神に基づき、求める入学者の条件を具体的に提示したものであり、志望動機とその意思を見極めることが必須であることから、面接試験の中では、これらを理解しているかを確認する質問が含まれる。また、医療人に必要なコミュニケーション力、優しさ、温かさが必要とされる。

以上

(12) 研修事業について

1．第1回教育・研究部会（H30.6.29）において、第12回教務研修会で取り上げるべきテーマについて、委員から意見を伺った。

2．第40回附属病院管理運営事務研修会を下記のとおり実施した。

・開 催 日　平成30年10月12日(金)
・世話大学　東京歯科大学

3．研修委員会小委員会（H30.9.12）を開催し、第12回教務研修会の内容及び役割分担等について検討した。

4．第12回教務研修会を下記のとおり実施した。

・開 催 日　平成30年12月3日(月)・4日(火)
・場　　所　KKRホテル東京

(13) 私立大学歯学部学生生活協議会について

1．第3回理事会（H30.11.15）において、三浦会長から、長年にわたって、持ち回りで自主開催されてきている「私立大学歯学部学生生活協議会」について、今後、協会の事業として位置付けて開催することとしてはどうかとの提案がなされ、意見交換の後、開催内容や経費の見直しをするとともに、協会事業として実施することが、出席理事12名全員の賛成により、承認された。

2．第5回理事会（H31.2.28）において、三浦会長から、第３回理事会で承認された、私立大学歯学部学生生活協議会を協会事業として実施するに際して、開催は１日の日程とし、従来の２日目の施設見学等については、実施しないこととするとともに、協会と開催お世話大学との役割分担は、附属病院管理運営事務研修会に準じたものとしたいとの提案があった。また、協会の担当役員は、大友副会長にお願いしたとの発言があった。

引き続き、白石事務局長から附属病院管理運営事務研修会の協会と開催お世話大学との事務等の役割分担の状況について、説明があった。

出席者から、私立大学歯学部学生生活協議会の発足の経緯や協議会の意義について発言があった一方、学長・学部長側から見た問題点等についての発言もあり、種々、意見交換がなされた。

その結果、三浦会長からの提案について、承認するとともに、協議会の議事の進め方等については、従前の形を尊重して、引き続き、実施するとともに、これまで作成されていなかった議事録については、簡便な内容の形で作成することを確認した。

なお、出席者から関東ブロックの協議会の今後の取り扱いについて、質問があり、過去に出席経験のある理事から、「全国ブロックの協議会に包括されていくことになるのではないか。」との発言があった。

最後に、議長から事務局に、幹事校の東京歯科大学及び来年度の開催お世話校の昭和大学と協議するようにとの指示があった。

3．3 月 27 日に、私立大学歯学部学生生活協議会佐藤会長（東京歯科大学学生部長）と大友副会長が、協議会側が課題としている、下記の 4 点を中心に協議を行った。

① 現状の形態を維持できるのか
② 私立大学歯学部学生生活協議会運営資金の維持管理は出来るのか。あるいは、現在の運営資金を加盟大学には均等変換するのか。
③ 会費・参加費等の徴収については従来通りでよいか。
④ 研修内容（議題等検討事項）について、ここ 3 年間続いている現在の資料形態で審議報告書としてよいか。改めた事後の報告書が必要か。

（14）大学病院で診療に従事する教員等以外の医師・歯科医師に対する処遇に関する調査について

1．平成 31 年 1 月 21 日に文科省職員が協会に来られ、調査の趣旨等についての説明があり、三浦会長、井手副会長及び羽村専務理事が対応した。なお、説明のあった内容については、速やかに各大学に連絡をして、情報共有した。

2．第 5 回理事会（H31.2.28）において、三浦会長から、資料により、1 月 21 日に協会に文部科学省職員が来られ、大学病院で診療に従事する教員等以外の医師・歯科医師に対する処遇に関する調査について、調査の趣旨等に関して、説明があったとの報告があった

（15）賛助会員の新規入会について

1．平成 30 年 4 月 1 日から、株式会社日本治水が、賛助会員となり、賛助会員数が 29 社となった。

2．第 5 回理事会（H31.2.28）において、羽村専務理事から、株式会社 EPARK から、賛助会員への入会申し込みがあり、特に問題はないと思われることから、入会を許可したいとの提案があり、これを承認した。

3．第 6 回理事会（H31.3.26）において、羽村専務理事から、資料によりメディア株式会社から、賛助会員入会申し込みがあり、入会を認めることとしたいとの提案があり、入会を承認した。これにより、平成 31 年 4 月 1 日からの、賛助会員数は 31 社となった。

（16）協会事務所の移転について

1．第 3 回理事会（H30.11.15）において、羽村専務理事から、私学会館の運営組織である私学研修福祉会から 9 月 5 日付で、私学会館と私学会館の間にある「須原屋ビル」を購入し賃貸することとなったので、入居者を募集するとの案内があったこと及び物件の概要について説明の後、課題としては、耐震強度にやや

問題ありとの診断結果となっていることがあるが、私学会館には他の私学団体も数多く入居しており、協会としてのステータスも上がるということもあって移転を検討しているとの説明があった。

引き続き、白石事務局長から、移転先候補として考えている2階部分については、面積及び賃貸料共に現在とほぼ同じであること、専門家に意見を聞いてみたところ、事務所であればIs値0.5以上であれば、使用に大きな問題はないのではないかとの意見をいただいていること、及び移転時期としては、業務の関係から来年8月1日を考えている等の補足説明があった。

また、三浦会長から、地盤についてもしっかりしているようなので、移転の方向で進めたいとの発言があった。

このことについて、質問や意見交換の後、出席理事12名全員の賛成により、事務所の移転が承認された。

2．第5回理事会（H31.2.28）において、白石事務局長から、資料により、第3回理事会で承認された協会事務所移転について、移転先建物所有者である私学研修福祉会から、入居についての承諾書が届いたこと及び7月25日頃に移転を予定しているとの報告があった。

3．第87回臨時総会（H31.3.26）において、羽村専務理事から、資料により、私学研修福祉会が取得した、私学会館横の現須原屋ビルへ、7月25日に事務所を移転する予定であるとの報告があった。

（17）災害歯科保健医療連絡協議会について

1．第3回理事会（H30.11.15）において、白石事務局長から、資料により、日本歯科医師会から災害歯科保健医療体制研修会への後援の依頼があり、講演名義使用の許可をしたこと及び研修会への出席者の推薦依頼があり、各大学に出席希望を照会し、4人を推薦したところ、全員の受講が決定したとの報告があった。

2．第5回理事会（H31.2.28）において、羽村専務理事から、資料により、2月20日に開催された、第8回災害歯科保健医療連絡協議会において、来年度の災害 歯科保健医療体制研修会については、秋に本年度の2地区から3地区での開催へ拡充されること及び災害時の歯科チームのビブスの色を、紫に統一することとなったなどの報告があった。

（18）私学関係諸団体との提携・協力及び援助について

知識と技術の向上を図り、歯科医療の発展に寄与することを目的として活動を行っている下記の5つの団体に対して、その活動を後援するため、各10万円の助成金を交付した。

○ 全国私立歯科大学・歯学部附属病院看護部長会
○ 全国私立歯科大学附属病院薬剤部長会
○ 日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科技工士協議会
○ 日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科衛生士協議会
○ 全国私立歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師代表者会